栄（さかえ）ひろみ 30歳

春日部市議会議員

現在は、教育環境委員会、新庁舎建設検討 特別委員会にて、委員を務めています。

平成２８年　新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては素晴らしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平成２２年に春日部市議会議員として初当選から約６年、愛するまち春日部市を想い、市議会における活動に加え地域のための活動にも参加して参りました。平成２６年５月からは、議会史上最年少の３０歳で春日部市議会副議長を務めさせて頂き平成２７年６月の退任まで多くの皆様のご協力を頂きました。

さて、昨年は新春日部市が誕生した合併から１０周年を迎えました。合併による新しい春日部市の誕生以降、これまで新市の一体感の醸成と市の発展のため、取り組んで参りました。地方創生において、今後地方自治体において、国の長期ビジョンと総合戦略を勘案して、地域の特性を踏まえて、平成２７年度中に地方人口ビジョンと地方版総合戦略を策定していくことになります。特に若者の視点から「住み続けたい」と思える元気で魅力ある春日部市となるよう今後も取り組んで参ります。寒さ厳しきおり、体調管理には気を使って頂き、お過ごし下さい。本年もよろしくお願い申し上げます。

栄 ひろみ

平成２７年の活動報告レポート

議会だけでなく、様々な活動をおこなっております。

建設中の市立病院視察

一般質問にて

市長へ予算要望書を提出

議会報告会

全国都市問題会議へ出席

ソーシャルメディアで活動報告しております！

アメーバ公式ブログ
http://ameblo.jp/sakae0208h

フェイスブック
facebook.com/hiromi.sakae

ツイッター
twitter.com/sakaehiromi

栄ひろみからのお知らせ

１２月議会において設置された、春日部市庁舎建設に係る諸問題や他の公共施設との整合性などを専門的に調査する「新庁舎建設検討 特別委員会」の委員に就きました。また、東武春日部駅の利便性向上を図るため、春日部駅付近連続立体交差事業の早期実現と東武野田線の輸送力増強を図ることを目的として、春日部市議会議員全員が参加する議員連盟の幹事に就きました。今後の本市の将来を見据え、更なる発展に積極的に取り組んで参ります。

栄ひろみプロフィール

昭和５９年２月８日春日部市粕壁生まれ。真由美幼稚園～上沖小学校～大沼中学校～越ヶ谷高校～日本大学法学部卒業。平成２２年４月春日部市議会議員選挙で初当選。
春日部商工会議所青年部、公益社団法人春日部青年会議所大池青年会に所属。第１０代春日部市議会副議長
現在、２児の父として子育て奮闘中。

HP：http://www.sakaehiromi.com

栄ひろみサポーターズクラブ
〒344-0061 春日部市粕壁 1-9-43
TEL：048-752-3451　FAX：048-637-0410

議会での一般質問等の内容は裏面に記載しております→

平成２７年の定例会における質問内容一覧

市民の皆さまからの要望を実現するため、毎議会欠かさず一般質問を続けております。以下は平成２７年の一般質問の一覧になります定例会の動画が春日部市議会のＨＰで公開されておりますので、ぜひご覧下さい。

平成２６年１２月定例会　一般質問

１、本市への定住と交流について

(1) 本市への定住促進と魅力あるまちについて
(2) 観光地域づくりについて
(3) 訪日外国人の誘客について
(4) 観光に関する県との連携について

平成２６年９月定例会　一般質問

１、保育所の指定管理について

１、中小企業振興について

平成２６年６月定例会　一般質問

１、藤塚米島線開通後の交通について

(1) 利便性の向上と交通量増加による市民の安全について
(2) 大池通り・ユリノキ通り交差点について

１、包括的連携協定について

(1) 現在までの成果は
(2) どのように市政に活かされるのか
(3) 本市の課題解決のため今後のアクションは

平成２６年３月定例会　一般質問

１、藤塚米島線開通後の交通について

(1) 本市の現状認識について
(2) 行財政改革分野について

１、包括的連携協定について

(1) 本市の商業の活性化に対する考えについて
(2) 空き店舗対策について

１２月定例会一般質問から

日本全国において人口減少局面となっております。本市の現状としましては、人口の推移については、様々な原因がありますが、平成１５年頃をピークに減少に転じ、２４万人台あった人口が、平成２７年１１月現在で２３万７０００人台から２３万６０００人台と減少を続けております。また本市の世帯状況を見ても高齢化が進み、単身・高齢世帯の増加という傾向が続いており、今後の税収の伸び悩みや地域経済の活力が低下することが懸念されます。本市にとって今後、社会全体の人口減少による影響は避けられないでしょうから、影響を受けようとも、市民が豊かな生活が送れるよう、こうした状況下にあっても持続可能なまちづくりを行っていくことが必要であると考えます。

しかし現状を見れば、近隣自治体では今、本市の周囲を取り巻く環境は刻々と変化し圏央道の開通や将来を見据えたまちづくりにより人口が伸びているまちがあります。
例を挙げれば隣の越谷市では、春日部市が減少の一途を辿っている間に、人口が増加を続けておりこの１０年で１万７０００人増えています。まちづくりに対して将来のビジョンを描きそれに向け着実に進められてきたのだろうと感じます。

これまでも何かと比較の対象となる自治体もありますが、それに対抗し、定住人口の奪い合いをするのでは減少してゆくパイを奪い合うことになり自ずと限界があるのではないかと考えます。
そこで、観光客などの「交流人口」の拡大により人口減少の影響を緩和し地域の活性化を図る必要があるのではないでしょうか。

外からの交流人口が増えることで、まちの活力を高め、産業や雇用など経済の好循環をもたらします。また外から魅力的に映るまちには、住む人にとって誇りとなり、そこに人は集うでしょう。そこにこそ市民の豊かさが生まれ、まちの活力となると思います。また、広域での連携により近隣自治体との役割分担による住民の生活の向上や課題の解決が必要。そこで人口減少のなかで持続可能なまちづくり、その中での定住促進に関して、市の考え方と現在の取り組みについて、様々な角度から質問致しました。